自動送出装置 TSW-08 Ver.1.0

操作説明書



LOGIX

目次

基本的な動作の説明	1
AV セレクター	1
画面説明	2
タイムテーブルデータ入力	2
Week データの入力	3
Time データの入力	3
ソースデータの入力	3
タイムテーブル最後の記述について	4
(1)最後まで実行したら1行目の時刻になるまで待つ	4
(2)最後まで実行したら1行目を実行する。	4
タイムテーブルの編集	5
カーソル移動	5
挿入、削除	5
タイムテーブル入力を終了する	5
実行	6
タイムテーブルの1行目の時刻からスケジューラを実行する。	6
タイムテーブルの任意の行から実行する。	6
現在時刻の設定、変更	7
初期設定(Setup)	9
A-Gain Set	9
A-Mode Set (変調器制御モード設定)	10
Week 有効 / 無効	11
No-Video Jump	12
EXT-IN 有効 / 無効	12
データクリア(Clear)	13
タイムテーブルデータ	14
ヒストリーデータ	14
No-Video データ	14
EXT データ	14
タイムテーブル保存、読み出し(File)	15
プリントアウト(Print)	16
タイムテーブルデータの印刷	17
その他のデータのの印刷	17
E X T 入力端子	18
その他の機能	18

18
18
18
19
19
19
19
19
19

電源ON/OFF

電源スイッチをONすることで電源が入ります。

キー操作について

操作の中で、キーを押しながら別のキーを押す操作があります。たとえば、 CTRLキーを押しながら、数字の1キーを押す場合は下記のように記述します



基本的な動作の説明

- 1 . 初期設定。この作業は導入時に行います。
- 2.タイムテーブルを入力。
- 3 . 実行。

AV セレクター



画面説明

動作状態や入力データは前面パネルの液晶ディスプレイに表示されます。

DATA DISPLAY				
E	WED	09:06:44]	
001	WED	10:00:00	1	M
002	WED	11:00:00	2	52
000	TLU	11.00.00	U	~

この画面が通常(実行状態)の画面です。1行目に現在時刻を表示します。

タイムテーブルデータ入力

タイムテーブル入力では番組の開始時刻、ソース番号、変調器制御コードを入力します。 設定により、週データを入力しないようにすることもできます。ソース番号は1-8の数字で 入力します。変調器制御コードはあらかじめ設定した値が自動的に表示されます。 カーソルを移動して変更することが可能です。

まず、実行状態(1行目に現在時刻を表示している状態)から





DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001-002	• <u> </u>	-::	Ξ	-
003		-::	-	-

画面はタイムテーブル入力モードに変わり、行番号の右側に 「 」カーソルが 表れます。このカーソルは上下のの矢印キー で動かすことができます。上下の移動はデータが入力されてい る範囲内しかすることができません。一番最初は下側への移動 はできません。

また WEEK データの下にアンダーカーソルが現れます。このカ ーソルは左右の矢印キーで動かすことができます。 この二つのカーソルの指し示すデータの入力変更が可能です。

矢印は



キーで動かすことができます。押し続けるとキーリピートが働きス クロールします。最大行は999です。

Week データの入力

ここに入力するデータ週のデータです。月曜から、日曜までのデータ を次のキーで入力します。



Clear 2

> Pinit 5

3

Clock

6

Table

1

File

4

7

Table 1 Mon_{Mond}

キーを押すと次のように表され、カーソルは TIME のところ に移動します。

Time データの入力

番組の開始時刻を1 - 0 キーで入力します。ここで、 10:00:00 と入力してみます。



DATA DISPLAY	′	
No Week Time	S	M
001→MON 10:00:00	Ξ	-
	Ξ	

	DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	М	
001	MON 1	0:00:00	1	М	
002-	→	-::	-	-	
003	— — —	-::	-	-	

ソースデータの入力 カーソルはソース「S」のところに進みます。

ここではソース番号を指定します。 ソース1を例として入力します。



を押します。

カーソルは2行目のWEEKのところに進みます。

このとき 変調器制御フィールドには左図のように M と表示されま す。これは変調器制御をモノラルにするという意味で、このデータ は Setup-2:A-Mode で設定されたデータが自動的に表示されます。 表示されたものと違う設定にする場合は、カーソルを M フィールド に移動し次のキーを押します。



モノラル (Mと表示される)



ステレオ(Sと表示される)



音声多重(2と表示される)

タイムテーブル最後の記述について

タイムテーブルの最後まで実行した後の動作を指定します。 次の2通りの指定ができます。

(1)最後まで実行したら1行目の時刻になるまで待つ



イベントが2行しかない簡単なスケジュールですが、 このスケジュールでは、3行目の WED 11:00:00 に なった時点で1行目の時刻がタイマーセットされま す。AVスイッチャーは2行目の状態を保持します。 実行行を示す矢印カーソルは消えます。 ソースフィールドの「E」はENDの意味で



を押すと入力できます。

(2)最後まで実行したら1行目を実行する。



このスケジュールでは3行目の WED11:00:00 になっ た時点で1行目を実行し、ソース1に切り替わります。 この場合、1行目の時刻は無視されます。 後はスケジュール通りに運転します。 ソースフィールドの「R」は Repeat の意味で



を押すと入力できます。

注意

いずれの方法もエンドレスにスケジュールを実行することができます。どちらも記述し ないときはタイムテーブルの頭に戻ることができませんので、必ず時刻と「E」もしく は「R」を記述してください。

タイムテーブルの編集

カーソル移動



キーを押すとカーソルが移動します。 上下のキーは押し続けるとリピートが働き、スクロール することができます。

CONT キーと上下キーを同時に押すと100行ずつス クロールします。

カーソルが1行目に移動します。

カーソルが入力されている最下行に移動します。

挿入、削除



カ-ソル行に1行空行を挿入します。



カ-ソル行を1行削除します。

タイムテーブル入力を終了する



を押します。実効状態に影響を与えずにタイムテーブル 入力モードを終了します。 スケジューラ実行はタイムテーブル入力から行います。 実行するときは、次の実行操作を行ってください

実行

タイムテーブルの入力が終了したらスケジューラを実行することができます。



実行には次の2通りがあります。

タイムテーブルの1行目の時刻からスケジューラを実行する。

DATA DISPLAY	/	
No Week Time	S	М
001→ <u>W</u> ED 10:00:00	1	M
002 WED 10:30:00	2	S
003 WED 11:00:00	8	2

タイムテーブル入力モードから

1行目が現在時刻表示に切り替わります。



タイムテーブルの1行目の時刻がくるまでこの状態で待 機します。

AVスイッチャーは現在の状態を保持します。

タイムテーブルの任意の行から実行する。

タイムテーブル入力モードに入り、実行したい行へカーソルを進めます。 例として2行目から実行します。カーソルを2行目に移動します。





同時にAVセレクターもソース2に切り替わります。



画面は実行状態に戻ります。このとき カーソルのある行が実行行です。 次に実行されるスケジュールは矢印カーソルの次の行です。

現在時刻の設定、変更

実行状態(1行目に現在時刻を表示してい る状態)から

Clock 윤 を押します。 CTRL 6



年の下にカーソルが表れます。カーソルは

DA	TA DISPLAY
==== CL	.OCK SET =====
Date= 1	999-03-20
Week=	ŠAT
Time=	10:11:12
Time=	10:11:12



で移動できます。



時計データの入力は数字キーで行います。 曜日は1 - 7キーで行います。



を押すと CLOCK 設定モードを終了し、 時計がカウントを始めます。

(ヒント)

この装置には内蔵時計を外部から校正する機能があります。装置背面パネルの校正端子 をショートする事で内部時計の30秒校正をすることができます。外部校正時計が接続 されてないときには、この端子にスイッチを取り付けるだけで簡易校正が可能になりま す。この場合、時報と同時にスイッチを押すと内部の時計が0秒に校正されます。

初期設定(Setup)

実行状態(1行目に現在時刻を表示している 状態)から



を押す。



DATA DISPLAY
セッテイメニュー
ו:A-Gain 2:A=Mode 3:Week (בלבלב)
4:No-Video 5:EXT=IN

左図の SETTING 画面が開きます。

ここで設定する項目は

各入力のゲイン設定

各入力ごとの変調器制御モード設定

タイムテーブル入力時、週入力をするかしないか。

実行中に映像信号なしを検出したときの動作

EXT 端子に信号が入力されたとき自動的に切り替えるかどうか



で選択します。



を押してゲインセットを行います。

A-Gain Set

DA	TA DISPLAY
[Audio	Gain Set]
ソース1 = ソース2 =	→ 0 dB +10 dB
Y-X3 =	+12 dB

この項目では各入力の GAIN を設定します。入力機器は+4dB 系とラインなどの-10dB 系があります。これらの機器を混在し て使用できるように入力ごとにゲイン調整が 2dB ステップで最 大+14dB まで設定できます。



÷

CTRL

もしくは

を押すとデータの変更が可能です。



で入力を終了します。

(注意)



ここで設定できるのはレベルのみです。インピーダンスは基板 上のジャンパーで行います

A-Mode Set (変調器制御モード設定)



を押します。



この項目では各入力ごとに、変調器を制御するモードを設定し ます。設定内容は次の3種類です。 M: MONORAL(モノラル) S: STEREO (ステレオ) 2: BiLingual (音声多重)



でカーソルを移動します。データを変更するには、変更するソース にカーソルを移動します。そこで





もしくは

を押すとデータの変更が可能です。



で入力を終了します。

DATA DISPLAY
===== セッテイメニュー =======
1:A-Gain 2:A=Mode
3:Week (בלבלב)
4:No-Video 5:EXT=IN



を押します。

Week 有効 / 無効

DATA DISPL	AY
=Week בּלִרלָב → 1:גביל 2:בלָבי	セッテイニ



でカーソルを移動してデータを選択するか



を押して選択します。



で入力を終了します。





を押します。

No-Video Jump

DATA DISPLAY
=No-Video Jump セッテイ=
1: Next
→ 2: Y-28
3: ナニモシナイ

実行中に映像無信号を検出したときどのように動作するかを設定し ます。

- (1)現在実行している次の行に切り替える
 - (2) ソース8に切り替える
- (3)なにもしない。



でカーソルを移動してデータを選択するか

 Table
 Clear

 1
 2

 Mon
 Stered

を押して選択します。



で入力を終了します。





EXT-IN 有効 / 無効





でカーソルを移動してデータを選択するか



を押して選択します。

で入力を終了します。





ENTER

End

で入力を終了します。

データクリア (CLEAR)

実行状態(1行目に現在時刻を表示している 状態)から

を押す。







÷

CTRL

左図の CLEAR SELECT 画面が開きます。データクリア項目は タイムテーブルデータ ヒストリー(実行履歴データ) NOVIDEO(NOVIDEO 履歴データ))EXT(EXT入力端子に入力された履歴データ)

クリアしたい項目のキーを押します。

2







を押すと実行画面に戻ります。



タイムテーブルデータ

タイムテーブルデータは999行入力できます。タイムテーブルクリアをすると999行すべてク リアします。後述するタイムテーブルのホゾンファイルはこの作業ではクリアされません。

ヒストリーデータ

タイムテーブルによって実行された履歴を過去100イベント分記憶しています。そのデータをク リアします。

No-Video データ

タイムテーブル実行中に映像信号がなくなったときその状態を100イベント記憶しています。 そのデータをクリアします。

EXTデータ

EXT 端子にビデオ信号が入力されると自動的に出力をEXT入力信号に切り替えることができる機能があります。この端子にビデオ信号が入力された状態を10イベント記憶しています。

タイムテーブル保存、読み出し (File)

現在表示しているタイムテーブルのデータを2つ分記憶するファイルを持っています。保存 は現在のタイムテーブルデータを999行すべて保存します。また読み出しも999行すべ て読み出します。タイムテーブルをクリアした後で保存をするとそのファイルはクリアされ た状態になります。



実行状態(1行目に現在時刻を表示している 状態)から







左図の画面が開きます。 ここで、保存か読み出しかを選択します。

保存の場合は



読み出しの場合は

Clear 2 Tue Stereo

を押します。



保存を選択すると左図のようになります。 次にどのファイルに保存するかを指定します。

> Table 1

ファイル1の場合は

ファイル2の場合は



を押します。



ファイル1を選択した場合は左図のようになります。 保存作業は一瞬で終わり、実行画面に戻ります。





ファイル読み出しも保存と同様の操作をします。

どちらのファイルに保存するかを指定します。

ファイル2を選択した場合左図のようになります。

読み出しは一瞬で終わり、実行画面に戻ります。

プリントアウト(印刷)

実行状態(1行目に現在時刻を表示して いる状態)から





(注意)プリンタに紙がセットされて、印刷可能状態になっていることを確認してください。

DATA DISPLAY
===== プリント メニュー ==== 1:タイムテープル 2:ヒストリー 3:No-Video 4:セッティ 5:EXT=IN

左図のプリントメニュー画面が開きます。 印刷する項目は タイムテーブルデータ ヒストリー(実行履歴データ) NOVIDEO(NOVIDEO 履歴データ) セッテイ(初期設定のデータ) Ext(EXT 入力端子に入力された履歴データ)

タイムテーブルデータの印刷

DATA DISPLAY
==== プリント メニュー ====
1:タイムテーフ ル 2:ヒストリー
3:No-Video 4:セッティ
[7 929 3022 ?]

DATA DISPLAY
7 リント メニュー
1:ダイムナーフ ル 2:ビストリー 3:No-Video 4:セッテイ
[\$447-7° #7° J>Ffa9]

DATA DISPLAY ==== ブリント メニュー ==== 1:タイムテーブル 2:ヒストリー 3:No-Video 4:セッティ [-- シュウリョウ --]



Table I Mon Mone キーを押すと、タイムテーブルの印刷を始めます。

もし、プリンタが準備できていないときや、ケーブルがはず れていた場合は左図のような表示になり、印刷はできません。

プリンタヘデータ転送中は左図の表示になります。

印刷が終了すると、左図の表示になります。 *印刷終了とはプリンタへのデータ転送が終了することで、 実際の印刷が終了することではありません。プリントバッフ ァーの小さいプリンタでは転送に時間がかかることがありま す。

印刷を途中で止めたいときは



を押すと転送を止めることができます。

ただし、この操作は転送されたデータに対しては働きません。 この場合はプリンタ側を操作して印刷を中止してください。

その他のデータの印刷



そのほかのデータ印刷は、印刷したい項目のキーを押します。



印刷メニューを終了するときは



を押します。

EXT入力端子

この端子に映像が入力されると、映像信号検出が働き、出力を自動的にEXT端子に入力された 映像、音声に切り替えることができます。この切り替えは、設定で ON/OFF できます。

Setup - EXT-IN 参照

その他の機能

時計校正

リヤパネルの時計校正端子(RCA-PIN)をショートすると30秒校正を行います。 ここに校正用時計を接続します。

アラーム出力

自動送出実行中に出力の映像が途切れた場合、アラーム音を発生します。このとき アラーム出力端子に接点信号を出力します。

機器の接続



注意事項

プリントアウトメニューとCLEARメニュー

プリントアウトメニューと CLEAR メニューは内容がよく似ています。プリントア ウトするつもりで CLEAR を行うとそのデータは削除され元に戻すことができなく なります。プリントアウトする際には注意してください

タイムテーブル参考例

WEEK について

WEEK を使うときは1週間単位のプログラムを組むことができます。たとえば、月曜から金 曜までと土曜、日曜のパターンが違う場合などは WEEK を入力するようにして、週間単位の プログラムを組みます。また、毎日同じパターンの時は、WEEK を使わないように設定する と入力の手間が省けます。

入力は1週間分だけとか、1日分だけでなく、999 イベント(行)記述できますので1週間 分入力した後にその次の週を入力すれば、順次実行できます。WEEK を使用しないモードも 同じです。

タイムテーブルに複数のスケジュールを記述し、実行する。

通常使用しているスケジュールパターンのほかに、別パターンで動作させたい場合、次の ようにします。



通常使用しているスケジュールの下に データを入力します。左図を例にする と、通常は1から6行を実行していま すが、特別スケジュールの7-11行 を実行するときは7行目を強制実行し ます。

そして、特別スケジュールの最後まで 実行すると通常スケジュールの1行目 に戻ります。 特別スケジュールはいくつ記述しても

かまいません。

保存ファイルを利用する

あらかじめ違ったパターンのタイムテーブルを保存ファイルに入れておき、必要なときに読 み出して使用する。この場合2つのファイルしか保存できません。上記と併用するとよいで しょう。